

## 四国で亡くなった越ヶ谷の六十六部行者

加藤幸一

(1) 六十六部とは

「六十六部」とは、写経した六十六部の法華經のことである。略して「六部」ともいわれるが、一般には、「六部さん」等と言って、六十六部行者（六十六部聖「ひじり」、廻国聖ともいう）のことを指す。

「六十六部廻国」は、遍歴者が、日本全国、北は陸奥国、南は薩摩国の六十六か国を歩き廻って巡礼し、六十六部の写経された法華經を一国一か所、合計六十六か所の霊場にそれぞれ一部ずつ、合計六十六部を納めることである。

鎌倉時代末から室町時代にかけては、僧侶が主に行っていた。江戸時代になると、僧侶の他に一般の人も行うようになったのである。

六十六部廻国の書き写した法華經（大乘妙典ともいう）の納経先は、その国の国分寺とも一ノ宮とも言われるが、実際には、それ以外の有力寺院や神社が選ばれることもあった。

六十六部廻国は、僧侶の他に一般の人が、鼠木綿の着物を着て、手甲・甲掛・股引・脚絆を付け、笈を背負って、鉦を吊り下げて鳴らし、「ナンマイダ」などと念仏を唱えながら、巡礼姿で諸国を旅するわが国最大の巡礼といえる。

(2) 越谷地域で見られる六十六部廻国塔

「六十六部廻国塔」（六十六部廻国供養塔）は、六十六部廻国巡礼が成就した記念に建立された石塔である。

巡礼先の地で廻国半ばにして亡くなり、その地の人によって、敬意を表して建立された石塔もある。

図1は、宝永五年（一七〇八）に大聖寺「だいしょうじ」（大相模の不動尊）の僧侶のために西方村（にしかたむら）の藤塚と山谷（さんや）の

人々によって建立された石塔で、市内で最古の六十六部廻国塔である。銘文も刻まれ、歴史的に貴重な石塔といえる。

図4は、六十六部廻国を成就した記念に通誉円心によって建立された石塔で、通誉円心は、廻国達成した十二年後にも念仏供養塔を建立するなどして地元で活躍している。

図5の上段の石塔は、増林村（ましばやしむら）の須賀吉兵衛なる者が、この地に訪れた六十六部行者の為に供養して建立したものである。

図8は、そこに刻まれた銘文によると武陽散人の雅号をもつ僧侶円心が、戊年（享保三年）の三月より子年（享保五年）の十月までの二年七か月をかけて六十六部廻国を成就しているが、それを記念して、翌月の十一月に増林三五〇〇の平野家（屋号は「げんざむ」）の先祖、平野源左衛門が建立したものである。大松（おおまつ）の平野家（大松一七五）の路傍にある六十六部廻国塔（図々）に出てくる円心と同一人物であろう。増林の平野家と大松の平野家との親戚としてのつながりが推測される。

図15は、相模国三浦郡下宮田村より、この地にやってきた六十六部の女性行者の供養のために建立されたものである。

図23は、野島村（のじまむら）生まれ小曾川村（おそがわむら）育ちの斎藤徳右衛門が、老いてから二度に分け、都合六年もかけて六十六部廻国を成就した記念に建立したものである。

図30は、越後国岩船郡村上領新保村からやってきた六十六部行者によってこの地に建立されたものである。

同じく図32は、越後国蒲原郡出身の江戸浅草の山谷（さんや）に住む六十六部行者によって建立されたものである。

なお、図12や13などの「六十六部供養塔」は、廻国はしないが、法華經六十六部を奉納し供養した記念に建立された石塔である。

(3) 四国の巡拝先で亡くなった越ヶ谷の六十六部行者

ア 四国の戸板島の『六十六部廻国墓地蔵』

これは、高知市の東北東十五キロメートルの地点にある観音堂そばの寛延四年(一七五二)の石仏である。所在地は、土佐山田町戸板島である。観音堂の北側には、四国弘法大師札所巡りの旧お遍路道が東西に走っている。東方の近くには、物部川が流れている。

高知市加賀野井二二三二一の岡村庄造氏の説明によると次の通りである。

「台座銘は向かって左側の『佐古郷(さここう)戸板島村』は石塔の現在場所で、中村氏は当村代々の庄屋です。現在も末裔が同所に住んでおり、同封写真の内、お堂の後方に写っている家がそうです。」「死亡の「六十六部」行者、七郎兵衛は、遍路コースに当たる戸板島のお堂(昔はもっと大きく、寝泊りできたと思われます)を根拠地として、治療や除災(じよさい)、その他祈禱などをして地域の住民に恩恵をもたらしていたでありますでしょうか。特に人の集まっている後免町(現、南国市後免町)方面へ力を注ぎ、多くの信者を得ていたものと解されます。没後、これ程の石塔を作ってもらえるのはその証しです。」と推定している。

イ 越ヶ谷新町の六十六部行者の七郎兵衛

地藏菩薩座像の台座には、「寛延(一七五二) 四辛未天 六月十四日」「武州さき玉郡こしかい新町 六十六部七郎兵衛墓 行年五十九 此所(ここ)にて没」と刻まれている。

越ヶ谷新町の七郎兵衛は、寛延四年六月十四日に、遠いこの地にやって来てとどまり、地元のために尽くしたと思われる、六十六部廻国巡礼半ばにしてこの地で果てたのである。

この石塔は、七郎兵衛(戒名は伝心禪定門)の墓を兼ねた六十六部廻国塔である。この石塔を建立した中心人物は、七郎兵衛を慕っていたと

思われる地元の戸板島村の庄屋(関東でいう名主)中村勘六や、近くの後免町に住む村上伴五郎と田所や安兵衛の合わせて三人である。

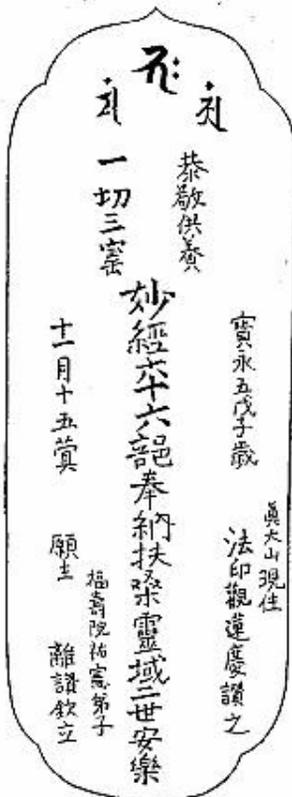
この石塔に刻まれている「こしかい新町七郎兵衛」とは、越ヶ谷宿新町の代々名乗ってきた会田七郎兵衛家の人物をさすのであろう。

江戸時代の文化・文政年間に作成された「越ヶ谷・瓜の蔓」(福井猷貞著)の中の日光道中に沿った町並みを紹介した図に「会田七郎兵衛屋敷」との文字が見られるためである。「会田七郎兵衛屋敷 田中安兵衛」と「会田七郎兵衛屋敷 会田新右衛門・庄蔵」の二か所がそうである。後者が会田七郎兵衛宅であろうか。会田七郎兵衛は、住まいの新町が越ヶ谷宿のうちでも一番南のはずれにあるので、分家の家柄であったことは間違いないであろう。すぐそばには、瓦曾根村(かわらぞねむら)がある。

平成二〇年八月 記

# 1. 六十六部廻国塔

大聖寺墓地



六十六部廻国塔（越谷市金石資料集）に掲載なし）  
所在地 西方・大聖寺の墓地（大聖寺の西、土手道下にある）  
石塔型式 笠付き角型（南向き・高さは高）  
年 号 宝永五年（一七〇八）

〔左側面〕

廣塚村助縁衆  
法印祐憲 彦左工門 次左工門 勘兵衛 八左工門 所右工門  
重右工門 平右工門 彦兵衛 新右工門 又左工門 金左工門  
喜兵衛 喜左工門 又兵衛 加兵衛 庄九郎 喜右工門 長藏  
才兵衛 □三郎 加左工門 仁兵衛 市郎右工門 久左工門 六左工門  
龍玄信士 妙心信女 理白妙心 葉月貞林 淨誓壽貞 妙琳信女  
〔正面〕

真大山現住  
宝永五戊子歳 法印銀蓮慶讃之

（梵字アン） 恭敬供養  
（梵字バク）  
（梵字マン） 一切三寢

妙經六十六部奉納扶桑靈域三世安樂  
十一月十五 □ 願主 離誼教立

〔右側面〕

山谷村助縁衆  
重左工門 与左工門 忠兵衛 源右工門 与五兵衛 市兵衛  
四郎兵衛 伝右工門 角右工門 兵左工門 □兵衛 新五兵衛  
仁左工門 与兵衛 又兵衛 安兵衛 小兵衛 伝兵衛  
五郎左工門 七之助 おさん おまん  
〔裏面〕

當山本堂前立不動明王 火炎劔索石座等  
院壞年已尚矣 粵信心沙弥難讚 乘納經六  
十六部之願 輪広募衆縁令修補之 且矜迦羅  
制多迦二童子像 新令彫造 請余慶讚 供  
養兼 遣石浮 因以欲胎將來其功不徒  
施福豈唐捐乎 大聖寺 觀蓮誌

※「扶桑」とは、中国の東方にある日の出る國、日本をさす。  
※「助縁」とは、「助授」（援助する）という意のことか。

## 2. 六十六部廻国塔

かいこくとう

妙音院墓地



六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』六十六部一番）  
所在地 四條・妙音院墓地（四條本田の集会所）  
石塔型式 笠付角型（東向き・高さは高）  
年 号 宝永七年（一七一〇）

〔左側面〕 天下泰平 國土安穩 萬民豊楽  
〔梵字ア〕

寶永七 庚 寅年

武州崎玉郡八幡領四本村

願主

檀竹

孫四郎

横川

清八郎

敬白

〔梵字ア〕 奉納大乗妙典六十六部日本廻国善願成

十月吉祥日

〔右側面〕 為三界萬靈有無兩縁也

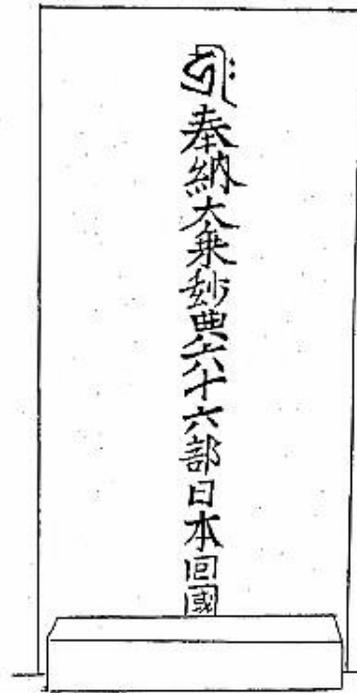
〔裏側面〕

願以此功德普及於一切

〔梵字アク〕 我等與衆生皆共成佛道

## 3. 六十六部廻国塔

富士合成工業そば丁字路



六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 平方・旧土手道西側突き当たり路傍（富士合成工業そば）  
石塔型式 角柱型（東向き・高さは中）  
年 号 宝永六年（一七〇九）

〔左側面〕

〔梵字ナ〕 于時宝永六己丑年十月吉日願主伝心

〔正面〕

〔梵字ナ〕 奉納大乗妙典六十六部日本廻国

※正面の梵字は「キリーク」

〔右側面〕

〔梵字ナ〕 武州新方領平方村司主惣巨那中

〔裏面〕

三界萬靈六親眷属七世父母等

4. 六十六部廻国塔 平野家「大松一七五」路傍



奉納大乗般若六十六部廻国塔

5. 六十六部廻国塔（「越谷市金石資料」に掲載なし）  
所在地 大松・平野家（大松一七五番地）路傍  
石塔型式 丸形り仏像付き逆付き型（東向き・高さは高）  
年 号 正徳元年（一七一）

〔左側面〕

（サク） 武州埼玉郡新方領大松村願主通譽円心

〔正面〕

（輪王座をした像）（キリク）奉納大乗妙典六十六部廻国塔  
地藏菩薩像。

〔右側面〕

（サ） 于時正徳元辛 卯九月大吉祥日

※大松村の通譽円心が、法華經（大乗妙典）をわが國の六十六か國すべてに納めようと廻った記念に造立したものである。

下の念仏供養塔の造立も通譽円心である。

念仏供養塔

平野家「大松一七五」路傍



享保八 癸卯 歲

十一月七日

6. 念仏供養塔（「越谷市金石資料」名号塔八番）  
所在地 大松・平野家（大松一七五番地）路傍  
石塔型式 狗型柱状（東向き・高さは高）  
年 号 享保八年（一七三三）

〔正面〕

享保八 癸卯 通譽

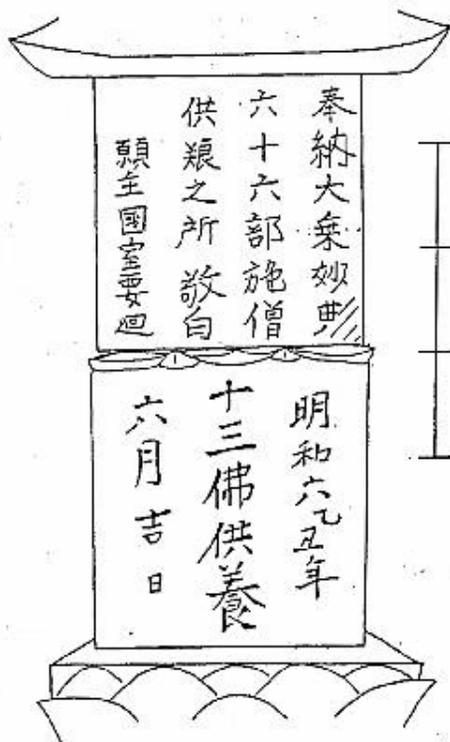
（日月・地藏菩薩座像）一千日念佛成就供養

十一月七日 円心

5. 六十六部及び十三仏供養塔

勝林寺

上部省略



下部省略

六十六部及び十三仏供養塔（『金石資料集』に掲載なし）

所在地 増林・勝林寺参道

石塔型式 不明（南東向き・高さは中）

年号 上段は正徳元年（一七一二）、下段は明和六年（一七六九）

〔左側面〕

須賀氏

※六十六部と十三仏の二つの石塔は

俗名吉兵衛

全く異質のもの。六十六部と十三仏

〔正面〕

奉納大乗妙典  
六十六部施僧

現在に至ったものと思われる。

供養之所 敬白  
願主國室要廻

※願主の国室要廻（増林村中組の八郎右エ門の子）、俗名須賀吉兵衛は、

〔右側面〕

正徳元 辛 卯年

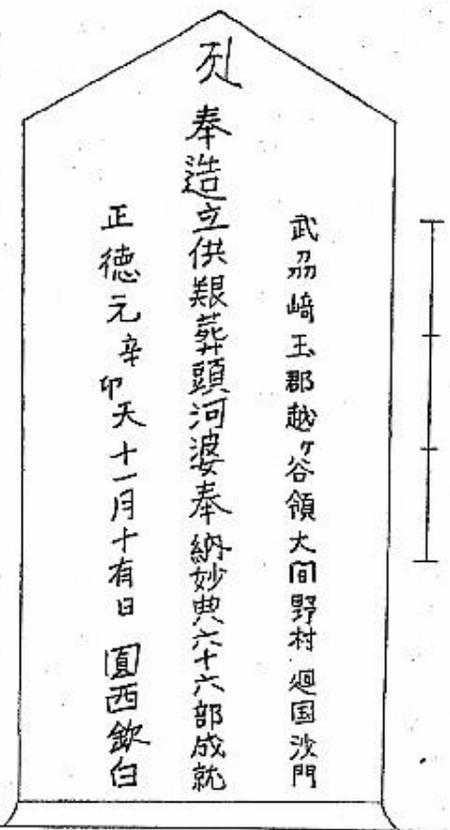
正徳元年九月二十日に、

六十六部廻（ひじり）の為に供養して建立した。

九月念日

6. 六十六部廻国塔

光福寺



六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大間野・光福寺参道

石塔型式 駒型（東向き・高さは中）

年号 正徳元年（一七一二）

〔正面〕

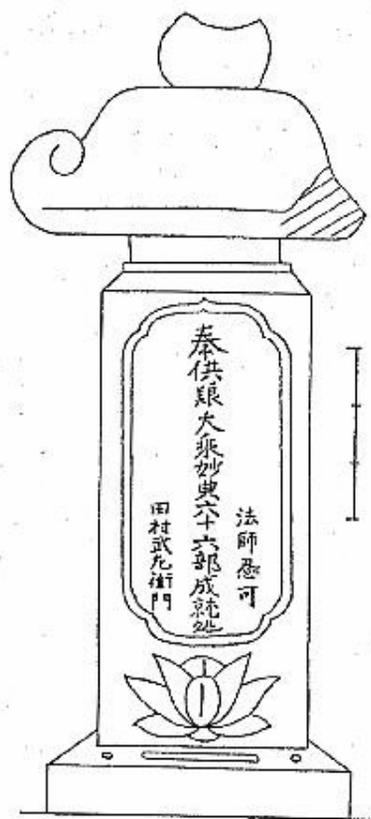
武州埼玉郡越ヶ谷領大間野村 廻国沙門

（梵字ア）奉造立供養葬頭河婆奉納妙典六十六部成就

正徳元 辛 卯 天十一月十有日 圓西欽白

# 7. 六十六部廻国塔

薬師堂



六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』六十六部三番）  
所在地 神明下・薬師堂（神明町二丁目集会所）入口  
石塔型式 笠付き角柱型（西向き・高さは高）  
年 号 正徳四年（一七二四）

〔左側面〕 正徳四年二月吉日  
梵 字 文  
武州嶋玉郡神明下邑

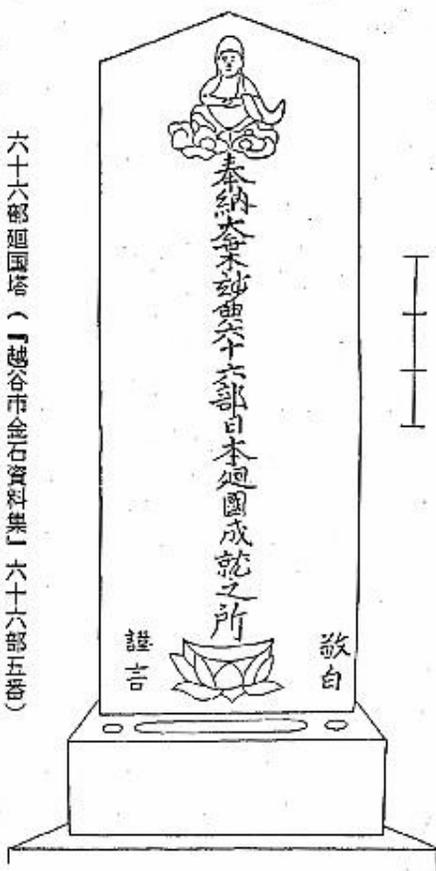
〔正面〕 法師忍可  
奉供養大乘妙典六十六部成就処  
田村武左衛門

〔右側面〕 三界萬靈有無□縁  
南無大師廻照金剛  
信心檀那二世安樂

啓白

# 8. 六十六部廻国塔

平野家個人墓地



六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』六十六部五番）  
所在地 増林・平野家（増林三五〇番）個人墓地  
石塔型式 駒型（南東向き・高さは高）  
年 号 享保五年（一七二〇）

〔左側面〕 于時享保五 庚 子 霜月吉日

〔正面〕

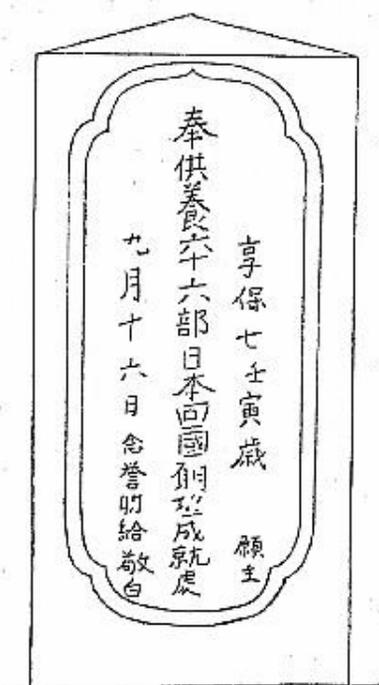
（一 仏）奉納大乘妙典六十六部日本廻国成就之所  
願主圓心 敬白  
謹言

〔右側面〕 夫以武陽散人圓心僧久有廻國望于旼當村施主平野氏源左衛門  
為蜜蔽光頭法師相積壽圓大姉并有縁無縁三界万靈平等  
利益有金錢之助力右之僧成三月□廻国日本六拾六ヶ國奉納  
大乘妙典諸国行脚之内諸人他力善根請庚子十月古郷塔  
去故供養塔造立者也 敬白

※「于旼」は「とき」と読む。「旼」は「之（の）日」という意味。

9. 六十六部廻国塔

浄音寺



六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』六十六部の六番）  
所在地 見田方・浄音寺の山門  
石塔型式 頭部山状奥行きやや狭い角柱型（南向き・高さは中）  
年号 享保七年（一七二二）

〔左側面〕

解脱山  
南無阿弥陀仏

〔正面〕

享保七壬寅歲 願主  
奉供養六十六部日本回國銅塔成就處  
九月十六日 念誓明給敬白

〔右側面〕

天下和順月日清明風雨以時災厲不起  
國豊民安兵戈無用崇徳興仁務修禮門

※災厲・災害と疫病  
※兵戈・刃物と戈（ほこ）

10. 六十六部廻国塔

聖徳寺



六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 川崎・聖徳寺無縁墓地・左側石仏群六列目右端  
石塔型式 笠付き型（北西向き・高さは中）  
年号 享保七年（一七二二）

〔左側面〕

武州埼玉郡新方領川崎村

〔正面〕

享保七壬寅天  
梵字（キリク）奉納經日本回國成就供養  
九月二十日 清心比丘

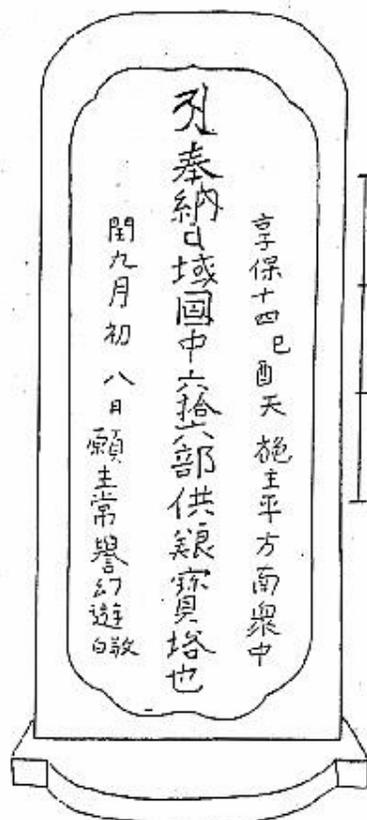
〔右側面〕

為三界萬靈六道四生等

清心比丘

11. 六十六部廻国塔

女帝〔女体〕神社



六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・女帝神社（女体神社）

石塔型式 上部隅丸角型（南向き・高さは中）

年号 享保十四年（一七二九）

〔正面〕

享保十四己酉天 施主平方南象中

（梵字「ア」）奉納日域〇中六拾六部供養寢貝塔也

閏九月初八日願主常譽幻遊敬白

※日域とは日本 ※〇は「国」か

12. 地藏像付六十六部供養塔

東養寺（太子堂）



六十六部供養塔（『越谷市金石資料集』六十六部七番）

所在地 大竹・東養寺

石塔型式 舟型（北西向き）

年号 享保十八年（一七三三）

〔正面〕

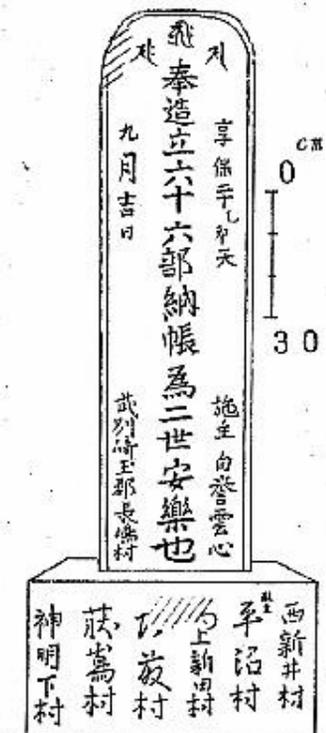
奉納大乗妙典六十六部供養佛

（梵字ア）（地藏菩薩立像）

享保十八己丑十一月吉日 願主知敬

13 · 六十六部供養塔

長島自治会館



六十六部供養塔 (『越谷市金石資料集』六十六部九番)

所在地 長島・長島自治会館

石塔型式 隅丸角型(西南西向き・高さは高)

年号 享保二十年(一七三五)

〔正面〕

〔台石〕  
西新井村  
願主

平沼村

鉤上新田村

左藤村

萩郷村

神明下村

〔台石〕

〔秋〕  
山喜右衛門

同姓 善六

藤波利左衛門

〔後〕

享保二十年 卯天 施主 白誓誓心

〔碑文〕 奉造立六十六部納帳為二世安樂也

〔年月〕 九月吉日

〔右側面〕

14 · 六十六部廻国塔

勝林寺



六十六部廻国塔 (『越谷市金石資料集』六十六部八番)

所在地 増林・勝林寺参道

石塔型式 笠付さ角型(南東向き・高さは高)

年号 享保二十一年(一七三六)

〔正面〕

天下泰平享保二十一年 丙辰 棧武州崎玉郡新方願

奉納大乗妙典六十六部日本廻国願成就供養塔

国土安全二月吉祥日増林村願主外伝祖格

※「稔」は「年」という意味

※願主の外伝祖格(中組の五兵衛の兄にあたる)は、宝曆十二年(一七六二)正月三日に亡くなっている。

15 · 六十六部廻国塔

一乘院



六十六部廻国塔（「越谷市金石資料集」に掲載なし）  
所在地 三野宮・一乘院の参道  
石塔型式 上部丸型（向東向き・高さは高）  
年号 元文二年（一七三七）

〔正面〕

天下和順 元文二丁巳年道周信士相州三浦郡下宮田村

（梵字マ）奉納大乗妙典日本回国六十六部供養

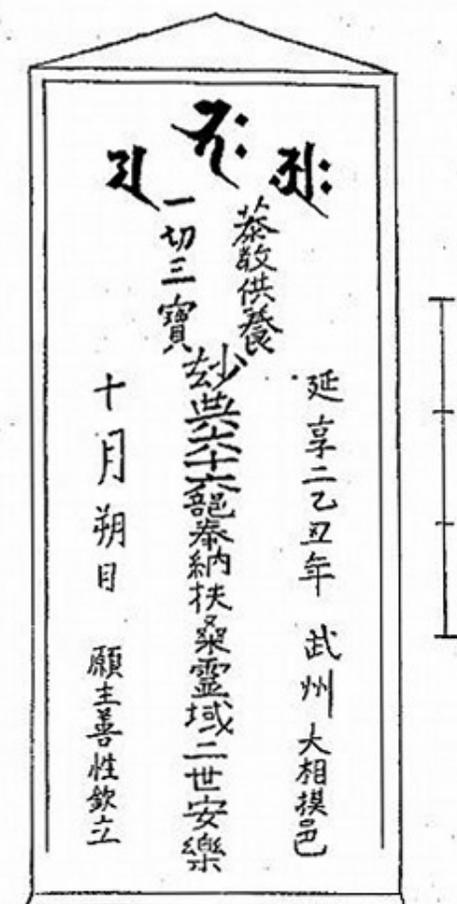
日月清明 十一月吉辰旦妙周信女本願普覺

大戸村  
大森村  
三ノ宮村  
大谷村  
大野村  
増長村  
大野村

〔台石〕  
大戸村  
須加村  
大森村  
三ノ宮村  
宿 坂巻平六  
おすて  
大谷村  
大野村  
増長村  
大野村

16 · 六十六部廻国塔

地藏堂墓地



六十六部廻国塔（「越谷市金石資料集」に掲載なし）  
所在地 東方・地藏堂（大相模小学校そば）  
石塔型式 頭部山状角型（北東向き・高さは中）  
年号 延享二年（一七四五）

〔左側面〕

道照信士 道場信士 高橋所左衛門  
妙貞信女 道榮信士 助縁衆 同 妻  
妙誓信女 芳意信女  
延享二乙丑年 武州大相模邑

〔梵字マク〕

〔梵字マ〕

〔右側面〕

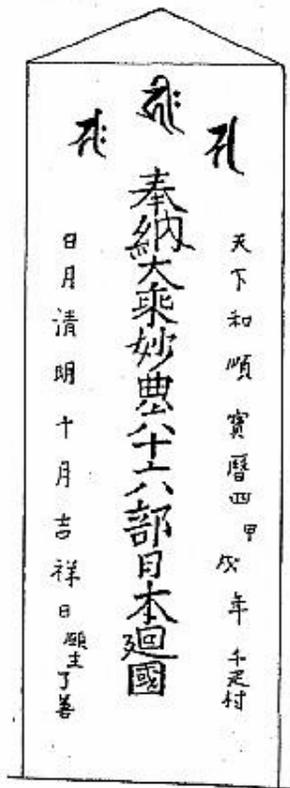
願以此功德 普及於一切  
我等與衆生 皆共成仏道

※妙典とは大乗妙典（法華經）をさす。  
※上部には、釈迦三尊の梵字が刻まれている。梵字マクは釈迦如来、梵字マクはアンの誤りで普賢菩薩、梵字マはマンの誤りで文殊菩薩をさす。

17. 六十六部廻国塔

かいこくとう

東養寺墓地



六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』六十六部一（番）

所在地 千足・東養寺墓地（千足南農村センター）

石塔型式 頭部山状角型（東向き・高さは中）

年号 宝曆四年（一七五四）

〔左側面〕

願以此功德  
普及於一切  
我等與衆生  
皆共成佛道  
施主 念佛講中

〔正面〕

天下和順 宝曆四年 戊午 千足村

（梵字キリク）奉納 大乘妙典六十六部日本廻国

（梵字サク） 日月清明 十月 吉祥日 願主 了善

〔右側面〕

如我昔所願 覺養法師  
今者已滿足 真行信女  
化一切衆生 相寿信士  
皆令入佛道 教普信女  
妙理信女  
智空童子  
施主 立澤権次郎

18. 六十六部廻国塔

観照院



六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』六十六部二（番）

所在地 七左衛門・観照院参道

石塔型式 角型（頭部にマス型の穴がある、南西向き・高さは中）

年号 宝曆四年（一七五四）

〔左側面〕

上総国□宮原村 年宿 渡□（刃之）六郎左門  
伊勢国渡会郡神野原 堀江治右門  
讃岐国三野郡下勝間村 石塔与助  
豊後国船井在小野津留村 牧野新右門

〔正面〕

天下泰平 當村行者

奉納 大乘妙典六十六部日本廻国 供養塔

（梵字サク） 国土安全 鈴木忠衛門

〔右側面〕

宝曆四年 甲戌 十一月 吉日

19 · 六十六部廻国塔

勝林寺



六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 地林・勝林寺西側旧墓地石井家墓所  
石塔型式 笠付角型（南東向き・高さは中）  
年 号 宝曆五年（一七五五）

〔左側面〕

喜願慈見信女 宝曆七丁 丑 天 ※一七五七年  
九月初八日

海雲照月信女 明和庚寅年 十一月廿二日 ※一七七〇年

〔正面〕

天下和順于時宝曆五 乙 亥 天 ※一七五五年  
奉讀誦大乘妙典廻國供養塔

願主 明和三 丙 戌 ※一七六六年  
心柳見外 三月廿一日

〔右側面〕 日月清明十一月吉日  
心海吹円信士 安永三甲午正月廿日 ※一七七四年  
半窓禪定尼 延享三 丙 寅 九月初五日 ※一七四六年

〔裏側〕

武州埼玉群新方領増林村 (郡)  
一 甲介 萬 雷 雷 守  
二 施主石井氏 次郎左衛門

20 · 六十六部供養塔

大沼大明神



六十六部供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 七左衛門・大沼神社そば七左町四丁目自治会館  
石塔型式 舟型（南南東向き・高さは中）  
年 号 宝曆八年（一七五八）

〔正面〕

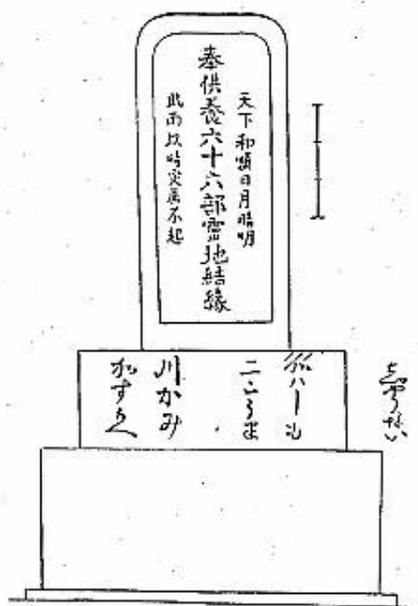
奉納六十六部供養 (梵字力) (地蔵菩薩像) 七左衛門村  
宝曆八 戌 寅 十月吉日願主依善

〔台石〕

21. 道標付き

天徳寺入口

六十六部供養塔



道標付き六十六部供養塔（『越谷市金石資料集』六十六部一三番）

所在地 越ヶ谷・天徳寺入口  
石塔型式 上部隅丸角型（西向き・高さは高）  
年 号 宝暦八年（一七五八）

[左側面]

宝暦八 戊 十月二十五日

願以此功德平等施一切同發菩提心往生安樂國

願主 越箇谷 願 更願法師 敬白

[正面]

天下和順日月晴明

奉供養 六十六部 當地 結縁

風雨以時災不起

[右側面]

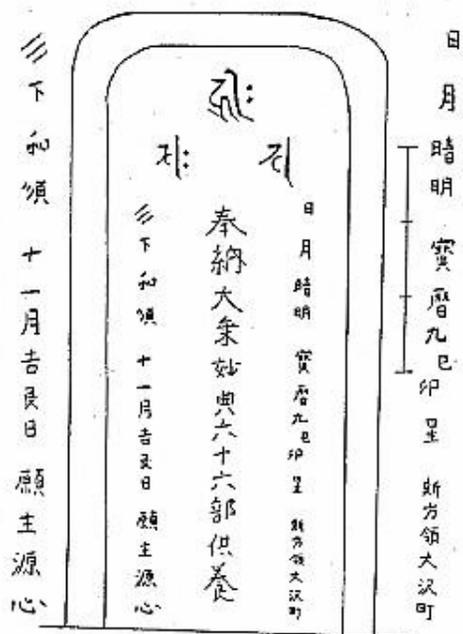
衆生諸願行一切能満足

天徳精舎靈蓮社智阿上人代

※台石の正面は、「川下二郷半、川上粕壁」と刻まれ、また左側面は、「橋は江戸、宮は庄内」と刻まれている。

22. 六十六部供養塔

地蔵橋の地蔵堂



六十六部供養塔（『越谷市金石資料集』六十六部一四番）

所在地 大沢・地蔵堂（大沢四丁目の逆さ川に架かる地蔵橋そば）  
石塔型式 上部隅丸角型（東北東向き・高さは中）  
年 号 宝暦九年（一七五九）

[左側面]

一切為精進

[正面]

（梵字サ） 日月晴明 宝暦九己卯星 新方領大沢町

（梵字キリク） 奉納大乗妙典六十六部供養

（梵字サク） 天下和順 十一月吉辰日 願主源心

[右側面]

此數地太郎兵衛分也

23  
六十六部廻国塔



田口家〔小曾川三三〇〕路傍

六十六部廻国塔（「越谷市金石資料集」に掲載なし）  
所在地 小曾川・田口家（小曾川三三〇）路傍  
石塔型式 頭部山状角柱型（南西向き・高さは高）  
年 号 明和五年（一七六八）

〔左側面〕

隨喜施主 小曾河村田口源右衛門  
助金二分 田口沢右衛門  
廻る日の本 田口沢右衛門  
如我有祈願 所々善男女等  
まくりれしき

行者 俗名齋藤徳右衛門  
法名植道宗本自題  
※「まく」は「まこと」か「まして」の誤りか。

〔正面〕

天和 順満塔  
六部 願満塔  
十八日 月清 明

〔右側面〕

武蔵國埼玉郡越谷庄齋藤徳右衛門者歴于野嶋村而住于小曾河郷人也  
當欲奉納經日域六十六州歳已久終不忍止寶曆十二壬午暮春出郷道□（歴）  
南西北中諸國而順履神社仏閣四ヶケ于茲乃還郷中間伸供養復明和二丙  
戌三月趣奥州新坂東越年丁亥五月帰郷前後六年而納経上界其間一日  
再宿厚恩捨財一鉢助力嗚呼幾乎身心堅固所願満足皆是還於三寶加  
護蒙乎衆人慈愛也依之為報恩謝徳彫刻遺箇石碑置於神社仏閣寶印  
在々所々寄宿日記信施俗名法名等以為願満供養塔則永劫當不朽如是  
宿植徳本増長善根則汝等々々皆當作佛豈違乎故感心餘不忍措如今稱  
植道宗本初述其意趣云爾  
于時明和五厘會戊子歲三月下流 野嶋山浄山禅寺現住寶願叟誌之

〔裏面〕

願以此功德  
普及於一切  
我等與衆生  
皆共成仏道

※右側面の漢文の書き下し文は次のとおりである。（越谷市宮本町二一  
一一七―六の鈴木秀俊氏による解説）

武蔵國埼玉郡越谷庄齋藤徳（右）衛門は、野嶋村に産れ、而して  
小曾河郷に住する人なり、当に日域六十六州に納経奉らんと欲して、歳  
已に久しく、終に止むるに忍びず、宝曆十二壬午〔年〕暮春、郷を出て  
還歴す、南西北中諸國の神社仏閣を順礼して四ヶ〔年〕、茲に乃ち郷へ  
還る、中間の供養を伸ばし、復明和二丙戌〔年〕三月、奥州に趣き、  
坂東を窮めて越年し、丁亥〔年〕五月に帰郷す、前後六年にして納経を  
上畢る、その間一日再宿、厚恩捨財、一鉢の助力は嗚呼幾〔何〕乎、  
幸身心堅固、所願満足は皆是三宝の加護を憑り、衆人の慈愛を蒙るなり、  
之に依り報恩謝徳の為に彫刻せる遺箇石碑彫置、神社仏閣宝印に於いて、  
在々所々寄宿日記、信施の俗名法名等を以て願満供養塔と為す、則永劫  
當に朽ちず、是の如し、宿植徳本、善根増長す、則、汝等々々皆作仏に  
当たり、豈違乎故、感心の余り措くに忍びず、今の如く植道宗本と稱す、  
其意趣を初かに述べ、爾云、  
時に明和五厘會戊子歲三月下流 野嶋山浄山禅寺現住寶願叟之を誌す

24 · 地藏像付き六十六部供養塔

天嶽寺入口



地藏像付き六十六部供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 越ヶ谷・天嶽寺入口  
石塔型式 駒型（西向き・高さは高）  
年 号 明和五年（一七六八）

〔左側面〕 〔台石〕

明和五 戊子十月廿四日

〔正面〕

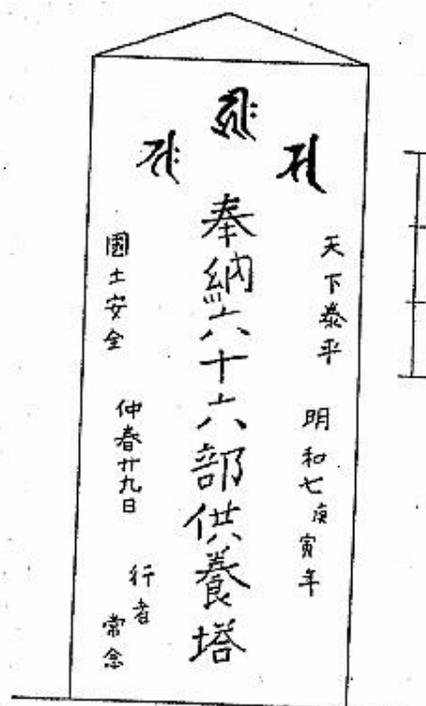
（地藏座像） （梵字「カ」）六十六部供養塔

〔右側面〕

武州埼玉郡越前谷住宅  
善達法子

25 · 六十六部供養塔

東養寺墓地



六十六部供養塔（『越谷市金石資料集』六十六部一五番）

所在地 千足・東養寺墓地（千足南農村センター）  
石塔型式 頭部山伏角型（東向き・高さは中）  
年 号 明和七年（一七七〇）

〔正面〕

天下泰平

明和七 庚寅年

（梵字サ）

（梵字キリク） 奉納六十六部供養塔

（梵字サク）

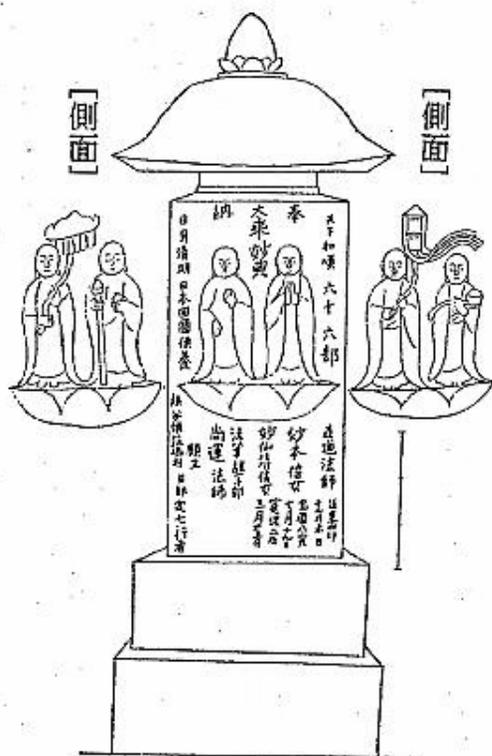
国土安全

仲春廿九日 行者

常念

※仲春は二月

26  
六地藏像付き六十六部廻国塔 玉泉院



六地藏像付き六十六部廻国塔(越谷市金石資料集「六十六部一六番」)

所在地 狹島・玉泉院境内

石塔型式 笠付角柱型(南向き・高さは高)

年号 明和七年(一七七〇)

〔左側面〕

(柄香炉を持つ)

二郷半領坂井木村七郎右門

道時信士 享保十四酉

十二月八日

内藤

百番供養

およし  
おふじ

(幡を持つ地藏)

一切精霊

矢部茂右衛門

〔正面〕

天下和順 六十六部

直道法師

延享四卯  
十二月廿六日

奉 (合掌する地藏像)

妙本信女

宝曆八寅  
七月十九日

大乘妙典

妙仙清信女

寛保二戌  
三月廿三日

法華經一千部

納 (宝珠を持つ地藏)

尚運法師

日月清明

日本回国供養

越ヶ谷領荻嶋村矢部定七行者

〔右側面〕

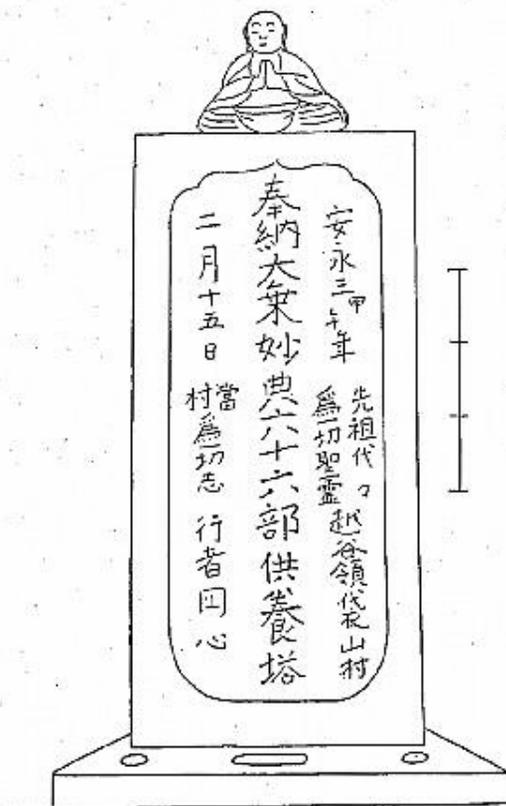
(錫杖と宝珠を持つ) 明和七 庚寅

(天蓋を持つ地藏) 十月吉日

願主  
越ヶ谷領荻嶋村 矢部定七行者

27 六十六部供養塔

袋山薬師堂



六十六部供養塔（『越谷市金石資料集』六十六部一七番）

所在地 袋山・薬師堂

石塔型式 頭部一仏付き角型（北向き・高さは中）

年号 安永三年（一七七四）

〔正面〕

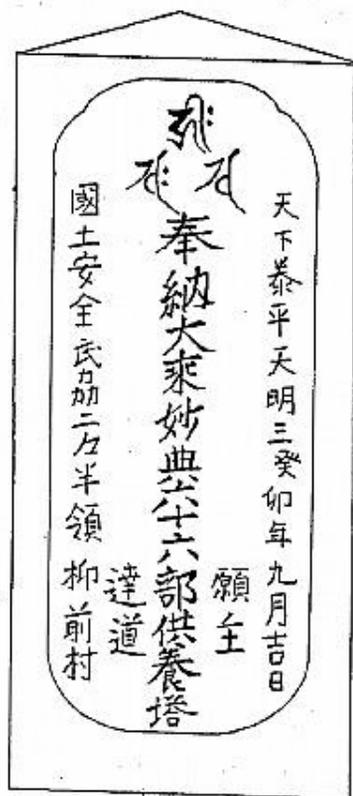
安永三年 先祖代々 越谷領袋山村  
午年 爲一切聖靈

奉納大乗妙典六十六部供養塔

合掌仏

二月十五日 村爲一切志 行者円心

28 六十六部供養塔 正福寺管轄の共同墓地



六十六部供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 中島・かつての正福寺管轄の共同墓地（中島二丁目五三）

石塔型式 頭部山伏角型（北西向き・高さは中）

年号 天明三年（一七八三）

〔左側面〕

宝暦二申五月十一日 義円信士 安永九子天  
梅伝心入信士 三月五日

花応英雪信女 智鏡信女 天明元丑年  
明和三戌十二月廿七日 六月十三日

〔正面〕

天下泰平天明三 癸卯年九月吉日 願主

（キリーク）

奉納大乗妙典六十六部供養塔 達道

國土安全武州二郷半領柳前村

〔右側面〕

秀岸清信女 宝暦十辰八月十七日

妙諷清信女 天明三卯六月二十八日

妙慈比丘尼 宝暦八寅三月十三日

29 · 六十六部廻国塔

福寿院



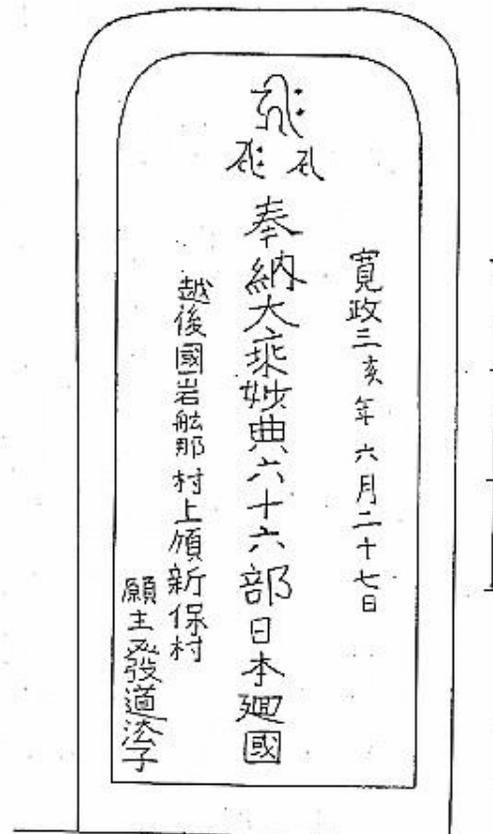
六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 西方・福寿院墓地の中央  
石塔型式 舟型（南向き・高さは高）  
年号 天明八年（一七八八）  
〔正面〕

奉造立地藏菩薩像  
（梵字「カ」）（地蔵菩薩像）  
日本廻国供養 願主 鈴木文七  
天明八年二月十三日

願主  
自他法界  
鈴木文七

30 · 六十六部廻国塔

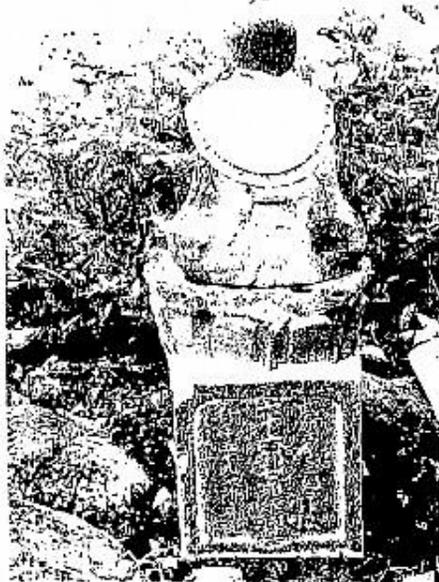
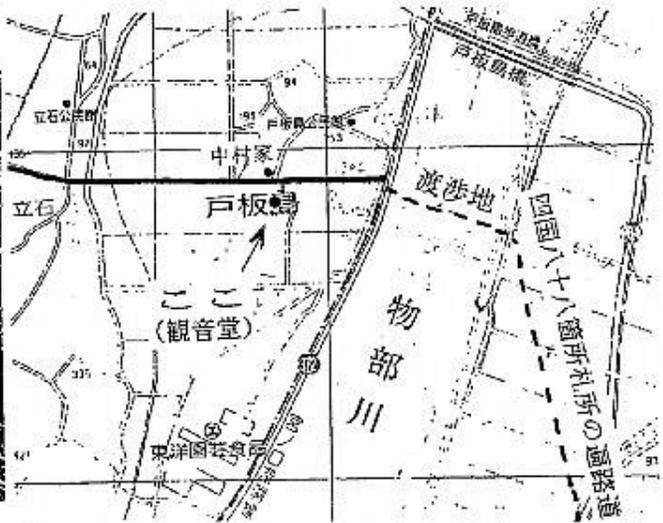
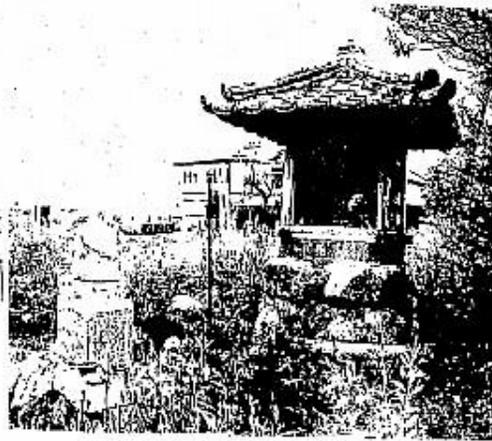
大杉第2集会所



六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 大杉・第二集会所  
石塔型式 上部隅丸角型（西南西向き・高さは中）  
年号 寛政三年（一七九一）  
〔正面〕

（サ） 寛政三亥年六月二十七日  
（キリク） 奉納大乗妙典六十六部日本廻国  
（サク） 越後國岩船那村上領新保村  
願主 岩船道法子





【四国の戸板島の『六十六部廻国墓地蔵』】



戸板島  
廻国墓地蔵

寛延四年未天  
(一七五三)

弘傳心禪定門靈位

六月十四日

武初さま玉郡こしかい  
新町

六十六部七郎兵衛墓

行年五十九此所而没

佐古御戸板嶋村  
中村勘六

施主後免町  
村上伴五郎

同町  
田所安兵衛

(台座 中村山 高 24cm)

【越ヶ谷新町の会田七郎兵衛】

現、大野家

大野新左衛門屋敷	新左衛門
医師兼玄屋敷	井橋
井橋太郎兵衛屋敷	釘屋 酒兵衛
	弥兵衛
大郎兵衛社	釘屋
会田藤右衛門屋敷	会田 八郎兵衛
	市兵衛
会田源兵衛屋敷	川村 權左衛門
会田七郎兵衛屋敷	会田 新右衛門
	庄藏
大野作右衛門屋敷	大野 兵藏

日光道中

現、栃木銀行

牛之助屋敷	釘屋 太兵衛
	平兵衛
会田平右衛門屋敷	会田 庄藏
	平三郎
△	清左衛門
△	井橋 太郎兵衛
	宇右衛門
丸屋善兵衛屋敷	喜兵衛 八
△	丸屋
△	庄藏

江戸

悪水沼地

越ヶ谷 八条領真中 瓦葺根 界

瓦葺根村

茶屋

東正院 修縁 除地

悪水沼地

瓦葺根村

悪水沼地

福井猷貞著「越ヶ谷瓜の蔓」より作成